

SARS-CoV-2 抗原陽性者における抗原量の経時的推移

◎高野 翔太¹⁾、大城 賢太郎¹⁾、高原 千佳¹⁾、高橋 詩帆¹⁾
JA 静岡厚生連 リハビリテーション中伊豆温泉病院¹⁾

【はじめに】当院は 2020 年 10 月から院内にて SARS-CoV-2 抗原定量検査（以下 Ag 定量）を実施し、発熱者や入院時へ対応している。新型コロナウイルスの第 6 波に直面し多くの感染者に対して Ag 定量を行う機会を得た。また、感染者治療の期間内でも経時的な Ag 定量を実施し値の推移をみる事が出来たのでここに報告する。

【対象及び方法】2022 年 1 月から 4 月末までに実施した Ag 定量 2,891 件の内、陽性者 95 名（男性 39 名平均 57.82 歳・女性 56 名平均 53.42 歳）に対し、陽性前後の数値の変化を検討する。測定機器はルミパルス G1200 を使用し試薬はルミパルス SARS-CoV-2 Ag を使用した。試料は全て鼻咽頭ぬぐい液とし濾過後遠心処理を行った。採取綿棒は数種類を使用しており、検体毎の採取はマニュアルに沿って実施した。0.01 から 0.99pg/mL（以下 単位略）を陰性、10.00 以上を陽性判定とした。1.00 から 9.99 を総合的診断域とし濃厚接触や臨床症状を伴う場合は陽性扱いとし後日検査を行った。感染を疑わない場合は抽出検体を再遠心後に再検査を行った。臨床症状での発症日確定は行っていない。

い。

【結果】検査結果が陽性となった日を当日として、陽性結果の過去 4 日以降は n=86 平均 0.059、前日は n=11 平均 3.32、当日は n=95 平均 3130.90 であった。当日陽性且つ、過去 3 日以内に陰性確認ができていた症例では、当日の Ag 定量は n=48 平均 2934.54（最大値 5000 最小値 11.47）であった。7 日目は n=10 平均 3131.88、10 日目は n=10 平均 1772.89 となった。

【考察】Ag 定量の経時的変化を示した報告はあまり確認した事が無かったので当院の症例をまとめた。症例により違いはあるが、陽性時は抗原量が急速に増加することや、陰性化までの経緯をみる事ができた。特に初回値が低値陽性の場合は臨床症状や周りの感染状況を加味して対応するが、院内感染の可能性がある場合は後日再検査を行う事により、感染時期を推測し接触者の範囲を予測できると思われる。

0558-83-3333 内線 141